

てんまつんじん

年首御慶

己亥 元旦



『悠久の日本人の心 磐座』発刊……	3 頁
宮司、就任記念インタビュー……	4 頁
宮司・名誉宮司就任パーティ……	6 頁
名誉宮司回顧録 ①……	7 頁
廣田稔画伯の御遺作奉納……	8 頁
「えびす祭」「梅まつり」告知……	12 頁
天神寄席「天満の天神さん」……	14 頁

表紙解説 「束帯天神像」 廣田稔氏奉納

大阪天満宮所蔵 紙本着色
縦七九・九cm 横三八・六cm
室町時代 伝狩野元信筆 一幅
松浦 清(大阪工業大学教授)

平安貴族が宮廷に出仕する際の正式な服装すなわち束帯姿の天神画像です。袍という盤領の黒衣を着用して上置に坐る姿で描かれています。

この天神像は昨年の十二月四日に大阪天満宮に奉納されました。旧所蔵者は、ご自身が描かれた油絵の大作「天神祭図」を昭和四二年に奉納された故廣田稔画伯(昭和五年〜平成二八年)です。画伯が描かれた「天神祭図」は拝殿の東側の上部に今も掲げられています。ご覧になった方も多いことでしょう。ここで紹介する「束帯天神像」は、画伯の遺作二点とともに御夫人の廣田英様よりご奉納されました。奉納の詳細は本誌の8ページをご覧ください。

さて、ご奉納の「束帯天神像」は、冠を被り、表袴を穿き、下襲の裾を後方に長く曳いています。勅許を得た高位の文官のみが帯びる太刀を平緒で佩用しています。眉目秀麗と称すべきか、穏やかな表情には気品が漂い、菅公の高潔な人柄を偲ばせま

す。しかし、注意してご尊顔を拝せば上歯で下唇を噛む表現を確認できます。この表情は明らかに怒り天神の系譜を引くもので、左手に持つ笏の上部を右手で抑える仕草も、無実の罪によって大宰権帥に左遷された無念に関わる表現でしょう。

この画像を納める木箱の小口には「元信筆／菅公／御像」との貼紙があり、室町時代の著名な画家狩野元信筆の伝承を示しています。

特に注目されるのは、木箱の蓋裏に「昭和卅二丁酉年秋九月／望信成識(朱文方印)」との墨書があることです。昭和三年は西暦一九五七年に当たり、また「望信成」とは著名な美術史家で大阪市立美術館長、大阪市立大学教授、帝塚山学院大学教授などを歴任された故望月信成氏です。墨書のすぐ上部に「菅原天神肖像／紙本緞子表装中味／巾一尺三寸長三尺／一幅」で始まる活字の貼紙があり、続けて次のように記されています。適宜、旧漢字は新字

に、歴史的仮名遣いは一部現行に代え、句読点を補って引用します。「本品は伊勢山田旧林崎文庫所蔵品であつたものにて之れを入手した宇治の名家後主の改装したるものに筆者は狩野元信なりと聞く。無落款で本紙非常にアレテ居るが、たくみに修覆しあり愛玩に差支へなし。一見するに神々しき人格の表情に何人も襟を正すべし。且つ筆力筆線の微妙に画家としても敬服必ずや三嘆すべし。思ふに此威厳ある肖像にして菅公を偲び得べく、將して元信の筆なりとせば其筆するにより天神の靈自ら此画に宿したるものなるべし。俗悪にして菅公を傷ける画は沢山拝見するが、真に之れ天下失ふべからざる一品なり。巻留に林崎文庫蔵印あり。桐箱入。」

そのなかでも我が国の基層信仰ともいふべき「磐座」に目を付けられたことに驚いたのです。プロカメラマンの鋭い感性に感服の至りです。いま一つの驚きは、作品の一枚一枚に「空気」が写っていることです。私は写真については全くの素人ですが、それでもページをめくるたびに、

た。その後、日本各地に博物館施設が設置されるに伴い文化財調査が活発になり、地域に埋もれていた文化財が再発見されるようになります。本図の箱の墨書は、本図がそのような流れの中に位置づけられるべき作品であることを示しています。

蓋裏の活字貼紙は、本図が林崎文庫の旧蔵であつたことを伝え、表装裏にも「林崎文庫旧蔵／大正十二年五月／改装」の墨書と「林崎文庫(朱文方印)」の印影があります。林崎文庫は伊勢神宮の内宮文庫として貞享三年(一六八六)に丸山に設立され、三年後に、北に隣接する林崎に移転して、林崎文庫と改称します。明治期まで利用されますが、その後廃絶しました。現在は国の史跡に指定され、その膨大な蔵書は神宮文庫に受け継がれています。文中の「宇治」は内宮周辺の自治に当たつた「宇治会合年寄」でしょう。丸山は伊勢市宇治今在家町の地名です。

この活字付箋を望月氏の解説と即断することはできませんが、面貌を描く肥瘦のない均質で伸びやかな細線や、天神ゆかりの松と梅を霞の向こうに漢画手法で描き分ける表現など、確かに相当の技量が窺えます。重要なのは、望月氏が本図を見ており、それを記している点です。明治期にフェノロサと岡倉天心によつて始まつた日本美術の調査事業は、日本美術史研究の基盤を形成しまし

世界観を提示しています。

天神画像のご奉納は不思議な縁といえましょう。現在、神宮徴古館では「特集展示 伊勢の神道と学問―林崎文庫―」が開催中です。国学の拠点伊勢と学問の神天神との関係を考える機会とすべき啓示と、画像奉納を受けとめたいと思います。

記録されています。わが国では古くから自然崇拜が浸透していましたから、人々は森羅万象の処々に神様を感じていました。それが磐座なのですが、やがて神社建築が広まりますと、信仰の対象は次第に神社に祭祀された神様にスライドしていきまして、それでも、全国には神様がおわ

山村善太郎さんの写真集刊行 『悠久の日本人の心 磐座』

当宮の熱心な氏子であり、プロカメラマンである山村善太郎さんが、写真集『悠久の日本人の心 磐座』を上梓されました。

山村さんは、全国各地三〇〇カ所以上もの「神宿る岩」を五年の歳月をかけて撮り続けられました。その結果、盤座の写真集に留まらず、現代における盤座を記録する貴重な資料にもなっています。

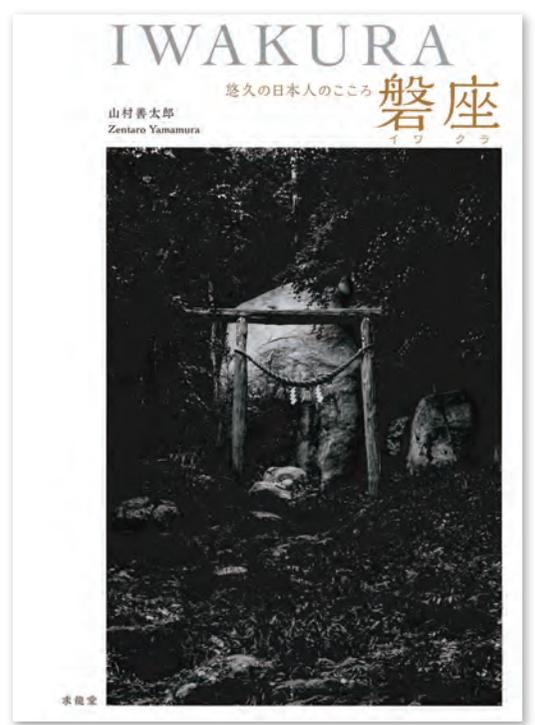
その意義やすばらしさについては、同書に寄せられた寺井種伯名誉宮司の巻頭言に言い尽くされていますので、ここに再録し、紹介に代えさせていただきます。

二つの驚き

大阪天満宮名誉宮司 寺井種伯

山村善太郎さんの新しい写真集を拝見しながら、二つのことに驚きました。

一つは「磐座」をテーマにされていることです。大阪天満宮の熱心な崇敬者である山村さんのことですから、なんらかの「信仰」を被写体にするに選ばれることは予想できたのですが、



そこには切り撮られた磐座だけではなく、その辺りに漂う太古の「空気」を感じました。プロカメラマンの卓越した技術に感心させられた次第です。

磐座は、いうまでもなく神様の鎮座される所をいい、はやく『古事記』『日本書紀』や各地の『風土記』に

します磐座が数多く伝えられているのです。

この写真集を楽しませていただきながら、文化人類学者のロバート・レッドフィールドの三類型を思い出しました。レッドフィールドは、世界各地における「神と人間と自然」の関わり方を踏まえて、次の三つの

- (ア) 自然のおのずからの動きの中に神も人も位置づける、日本をはじめアジア各地に広がっている自然中心の世界観。
- (イ) 神が人間と自然を作り、人間に自然の支配をゆだねたとする、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教などに見られる神中心の世界観。
- (ウ) 人間は自然を支配するが、その一方で人間の弱さゆえに神を必要としたとする、ルネッサンスの人間の発見に始まる近代合理主義の人間中心の世界観。

ここで我が国の「神様」と西欧の「GOD」を一律に扱っていることはさておき、磐座を考えるとときには興味深い三類型です。(イ)では神が自然を作り、(ウ)では人間が自然を支配するといえますから、(ア)でなければ磐座は生まれなかったのです。先に我が国の基層信仰といつたのはこのことです。

山村善太郎さんの『悠久の日本人の心―磐座』を我が国だけではなく、世界中の人々にもご覧いただき、我が国の基層に横たわる「心」に想いを馳せていただけることを期待しております。

昨年四月に就任された寺井種治・新宮司に、今後の抱負などについてお話しいただきました。

◆ 小学校四年で「典論」に

——代々の宮司家にお生まれになりましたが、いつ頃に神主になる決

意をされたのでしょうか？

宮司 そうですね。小さいころは、当宮の職員に遊んでもらったり、境内でボーイスカウトの活動をして神社に親しんでいましたが、神職になる意識は、小学校四年生の天神祭が最初の転機だったように思います。先々代の種茂宮司のときでしたが、

寺井種治宮司 就任記念インタビュー



「典論（かぎのつかさ）」として陸渡御で初めて馬に乗ったのです。

このとき、やはり自分は神主になるのかな、と漠然とした感じを持ちました。しかし、大学へ進学するころには「卒業後には一般企業に勤めたいから、神主になってもいいかな」という気になりましたね。

（注）寺井家の先祖は、当宮の前身である大將軍社の鑰取を勤めていたから、「典論」はこの家系を踏まえたお役目です。

◆ 明治神宮で培った人脈

——しかし、大学卒業後は一般企業には就職されなくて、明治神宮に奉職されていますね。

宮司 ええ、将来のために神職の資格は取っておかねばと考えて、大学卒業後に國學院大學神道学専攻科に進んだのですが、ここで神職の意義に目覚め、明治神宮にお世話になりました。

明治神宮では十年にわたってご奉仕させていただきました。その間、崇敬会で千葉県・埼玉県を担当させていただき、崇敬者の皆さんへの接し方やコミュニケーションについて勉強させて頂きました。スーツにネ

クタイ姿で、両肩を駆け回っていた時代を懐かしく思い出します。

その後は、教学部に所属しましたが、多くの会の事務局のお世話をさせていただいたり組織の有り方、対人関係も鍛えられましたね。

なかでも、そのころの先輩や同輩との交流は本当に有難いものでした。お陰様で、いまも全国に親しい知り合いがいますが、その多くは宮司になつていきますからね。明治神宮で培った人脈は、私の大きな財産になっています。本当に感謝しています。

◆ 大阪天満宮に戻って

——明治神宮に十年間お務めされましたが、ご自身の幼いころを覚えていらっしゃる職員や氏子さんたちがいて、やりにくくはなかったですか。

宮司 ええ、そうですね…。正直に言いますと、戻ってきてしばらくの間は戸惑いというか、少しやりにくさはありましたね（笑）。

でも、五年後には「御神退一一〇〇年祭」を迎える年でもあったので、今となってはいいタイミングだったと思っています。

——その後、権宮司として宮司に

なるための心構えはされていたと思いますが、それでも宮司に就かれて、なにか意外だったこと、困ったことがありましたでしょうか。

宮司 そうですね、長い間、宮司を補佐してきましたから、日々の実務に戸惑うことはあまりなかったのですが、痛感したのは、宮司としての責任の重さでしょうか。何事も最後は自分一人で決断しなければなりません。それは予想以上の重圧でしたね。就任から半年以上経ちましたがまだ慣れないことが多いですね。

◆ 天神祭と繁昌亭

——新宮司としての課題について教えてください。先日は『ビートたけしのTVタックル』（テレビ朝日）にご出演されて（八月一九日）、天神祭の課題を話されましたが、

宮司 はい、天神祭については、マスコミでも報道されているように、協賛企業の減少や、警備費の増加、船渡御の船数の確保など、宮司として取り組まねばならない課題が山積んでいます。

特に「天神祭渡御行事保存協賛会」の運営や、事務局としての社務所の体制についても、改革が必要だと考

えています。すでに対策のための会議を定期的に開いています。難しい大きな問題ですね。

しかし、このような時代に宮司になったのも運命だと、前向きに受け止めるように自戒しています。

——当宮が敷地を無償提供している「天満天神繁昌亭」の今後については、どのようにお考えですか。

宮司 そうですね、氏子の皆さんや落語家さんたちが関心をもたれていると聞いています。平成十八年の開業以来地域の方々達にも大変喜んでいただいております。今後の運営については当宮としても全面的に協力させていきたいと思っています。

◆ 御神退一一二五年祭

——先ほど、御神退一一〇〇年の話が出ましたが、あと九年で一一二五年祭を迎えますね。

宮司 そうなんです。昭和五二年の一〇七五年祭は先代・種茂宮司、平成一四年の一〇〇〇年祭は先代・種伯宮司のもとで式年大祭が執行されました。そして一一二五年祭は私が行うこととなりますね。その意味では、二五年ごとの式年祭はよくできた巡り合わせですね。

（注）菅原道真公の御誕生日が六月二五日、太宰府への左遷の詔勅が一月二五日、薨去が二月二五日であったため、天満宮では式年祭を二五年ごとに行っています。

宮司 九年後は西暦でいえば二〇二七年ですから、先頃招致が決まった大阪万博の翌々年にあたります。

私は一一二五年祭を機に、当宮の御宝物や天神祭の御道具などを収蔵するとともに、皆様に御覧いただけるような施設を建設したいと考えています。「収蔵庫を兼ねた宝物殿」のようなものです。境内のどこに設けるべきか、いま三カ所ほどを候補に思案しています。

——一一二五年祭には宮司は何歳になられますか。

宮司 九年後は、六四歳ですね。年齢といえば、先代は五六歳で宮司に就任し、今年の三月まで約三〇年の御奉仕でした。私もいま五五歳ですから、ほぼ同じ年で宮司になった訳ですが、あと三〇年たつと八五歳ですが、次の宮司にバトンタッチする迄、元気でいなければなりませんね。それはともかく、この一一二五年祭は、私に与えられた大きな責務だと考えています。

◆ 神職の資質について

——ぜひ、宮司も先代を見習って三〇年の御奉仕をお願いしたいものですが、何か日ごろから健康に留意されていることはありますか？

宮司 毎日、走っているんですよ。毛馬や大阪城のあたりを走っていると、よく氏子さんたちからお声掛け頂きます。フルマラソンの大会などにも出場しています。

——ベストタイムは？

宮司 三時間四十分です。——ええ、それはすごい。これからも健康にご留意ください。最後に、この機会に話しておきたいことがあればお聞かせ下さい。

宮司 はい、これからは、今まで以上に神職の資質が問われることになると思っています。どんな些細な欠点でもSNSなどで大きく喧伝される時代でもありますし、だからというわけでもないのですが、肩書きや職名に甘えずに、私自身も含めて職員全員が、改めて襟を正して、神職としての自覚を持ちたいということです。氏子の皆様があつての神社であり皆様から愛される大阪天満宮でありたいと思っています。

寺井種治宮司 寺井種伯名誉宮司

就任感謝の集い



昨年四月一日付で、寺井種治が神社本庁より大阪天満宮宮司を拜命、また五月一日には、寺井種伯が名誉宮司を拜命致しました。そこで、去る十月十日、帝国ホテル大阪において「就任感謝の集い」を開催致しました。

ご案内申し上げた処、全国より斯界を代表する宮司様はじめ、地元大阪からも多くの宮司様、神社関係の皆様、また大阪天満宮を支えて下さる氏子崇敬者の皆様、天神祭に関わって下さる講社の方々、また御関係の皆様など、五百名に近い方々のご出席を賜りました。会は、寺井種治新宮司の挨拶で始まり、大阪府神社庁長の藤江正謹様、黒住教主の黒住宗道様にご祝辞を賜り、太宰府天満宮の西高辻信良宮司様の飲杯の発声にて祝宴が執り行われました。

祝宴は和やかに進行し、寺井種伯名誉宮司が謝辞を述べ、天神祭でお馴染みの



「大阪締め」を太鼓中の西川輝彦総代の発声の元、参加者全員で手打ちを行い、閉会致しました。

寺井種治宮司は、寺井家の第五十八代目として、天神様の御神徳の宣揚と氏子崇敬者の皆様にご恩返しが出来よう神明奉仕に努める所存であり、今後とも変わらぬ御指導御鞭撻を賜りますようお願いされました。



来し方をふりかえって(一)

大阪天満宮名誉宮司 寺井種伯

昨年五月に当宮名誉宮司の称号を受けられた寺井種伯氏は、昭和八年生まれ、今年八十六歳になられます。

寺井家のご先祖さんは、第三十七代孝徳天皇によって白雉元年(六五〇)に造営された長柄豊碕宮(大阪市中心区)を鎮護するため、皇居の四隅の一つ巽(西北)の方向に祀られた大將軍社(現在は当宮摂社)の「鑰取」でした。「鑰取」というのは、社の御扉の鍵を預かっているという意味です。

引越しばっかりの幼少期

以後、寺井家は代々、地主神である大將軍社と、菅原道真公を御祭神とする天満宮にお仕えされてきました。

私が生まれたのは、父種長が鳥取県の西伯郡にある名和神社、旧別格官幣社ですね、その宮司を昭和四年からしておりました時です。名和

神社の御祭神は、南北朝時代、南朝側の有力武将である名和長年ですね。私の名前は名和神社が伯耆の国ですから種伯と名付けられました。兄は、父が賀茂別雷神社に奉職していた時に生まれしたので種茂(大正

貫前神社へ行くことになったんです。父が、貫前神社の宮司になりました。で、当時のことですから、さきに父が赴任しまして、一ヶ月位遅れて家族が行きました。しかしね、私は生まれてすぐ、まだホヤホヤですからね、それこそ引越しが大変だったようですね。今みたいに宅配便とか引越しの何とか、そんなありませんしね。母徳子は、姉二人と小学校一年の兄、そして私を抱っこして、鳥取から群馬まで汽車旅だったようです。荷物もたくさんあったでしょうね。



寺井種長
(明治27年4月1日
~昭和43年7月1日)



寺井徳子
(明治33年1月21日
~平成12年2月4日)

十五年十一月二十七日生々平成元年十一月十六日没)です。

昔は、官国幣社の宮司は国家公務員ですから、内務省の辞令一本であつち行け、こつち行けというようなことでした。私が昭和八年八月十五日に生まれまして、九月の終わりにくらしいには次の辞令が出て、群馬県の

そんなことで、貫前神社で昭和八年から、十一年までおりました。それから昭和十一年にまた辞令が出まして、今度は兵庫県垂水区にある海神社に転勤というようなことで、貫前神社から海神社へですからね、それはまた大変だったでしょうね。

その時には、妹が二人増え、子供が六人になって。本当に西へ東へあつちこつちまわって、母親が一番苦労したと思いますね。引越しの荷物もせないけませんからね。おそろく行李なんか詰めて縛がけし、送ったんだらうと思えますけどね。お茶碗とか割れもんなんか、一体どういう風にして送ったんでしょうね。

名誉宮司寺井種伯 プロフィール



- 昭和32年 関西学院大学 文学部史学科卒業
- 昭和33年 國學院大學 神道専攻科卒業
- 昭和33年 明治神宮奉職
- 昭和36年 明治神宮権祓宣拝命
- 昭和39年 大阪天満宮権祓宣拝命
- 昭和40年 四條畷神社宮司就任
- 平成元年 大阪天満宮宮司就任
- 平成11年 神職身分特級を受く
- 平成16年 大阪府神社庁長就任
- 平成22年 神社本庁常務理事就任
- 平成29年 神社本庁長老称号を受く
- 平成30年 大阪天満宮名誉宮司就任



昨年一〇月二五日、無事に流鏝馬式を終えることができました。江戸時代の初めから続く当宮の流鏝馬式は、幾度かの変遷を経ながら今日まで継承されてきましたが、昨年からは安全体制や警備体制の大幅な見直しを行いました。

流鏝馬式の改正

といたしますのは、一昨年の流鏝馬式では、馬場清戒いの神職の騎馬の鞍が緩み、驚いた馬が暴れ、口取り役が制御しきれずに放馬してしまう事態となったのです。

そこで、式後の反省会では、拝観者の安全をはじめとする警備対策について検討しました。表門前の公道を馬場とする従前の形式についての可否も含めて議論しましたが、氏子関係者の御意見や警察の御指導を頂き、流鏝馬式自体は従前の形式を保持しながらも、様々な改正を行いました。

《警備体制》

一昨年までの馬場警備は氏子地域から奉仕員を募り、職員を含めて五十名程の体制でしたが、昨年は専門の警備員を二三名配置するとともに、氏子奉仕員も大幅に増員、八四名のご奉仕を頂きました。結果、境内や路上に百名以上を配した万全の体制となりました。

《儀式の内容》

これまでのような、乗馬経験のない神職の騎乗は危険なので、昨年からは馬場清戒いは馬を従えて徒歩で祓いを行うこととしました。また騎乗者についても、これまでの大学の馬術部員ではなく、プロ騎手の奉仕を



依頼し、奉仕の馬も映画の撮影に従事するような行事慣れした馬を採用しました。

《拝観者防護柵》

門前の公道には、馬場と拝観者を区切るために、二百五十mに亘って両側に防護柵を設置しました。

《交差点、馬止めに幔幕》

馬場となる道路には三カ所の交差点がありますが、このこと馬場終点の馬止めには、手持ちの幔幕を道路幅に合わせて設置し、馬が馬場を逸脱しないようにしました。



撮影：桂 文枝

《事前広報の徹底》
馬場となる道路は平素から生活や業務用の車輛が通行する場所でもありますので、二週間前から町会の会議などでも告知して頂き、広報用紙なども配布してご協力を御願いし、当日は音声による広報活動も実施するなど周知徹底を図りました。
《交通規制の実施》
一般車輛の安全にも考慮して今回は初めて当該時間に限って一部道路の交通規制通行止めを実施しました。これに伴い、事前に広報表示板を設置し、御協力を促すようにしました。
このような様々な改正により、今年の流鏝馬式は、時間も短縮され、無事に斎行することができました。ご奉仕各位、関係各位へ厚く御礼を申し上げます。

廣田稔画伯の御遺作奉納

十二月四日、廣田稔画伯（昭和五年〜平成二八年）の御夫人・廣田英



様（兵庫県篠山市）から、画伯の御遺作「油絵」二点と、御遺蔵の「天神画像」のご奉納がありました。



式の終了後に

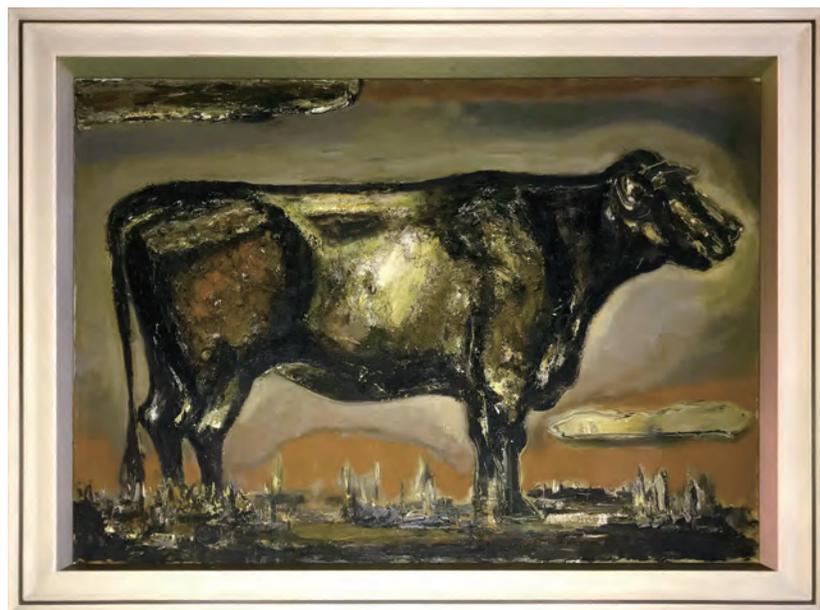
た昭和四二年にも、五百号の大作油絵『天神祭図』をご奉納頂いておりますので、半世紀ぶりの御奉納となりました。御本社拝殿の東側の上部に飾られている巨大な油絵をご存知の方も多いことと思います。

この度ご奉納の油絵は、『富士山』（P15号、昭和五〇年作）と、『得牛』（F60号、平成一〇年作）です。同時に貴重な『天神画像』（軸装一幅）もご奉納下さいましたが、こちらについては、本誌表紙でご紹介し、松浦清先生に解説をご執筆いただきました。

奉納式は、廣田稔画伯を奉納主として廣田英夫人をご代理とし、奉納のお執り次ぎを頂きました村上富造様にもご参列頂き、御本社幣殿に奉納品をお飾りして厳粛に斎行されました。

宮司から「受納證書」が贈呈され記念撮影を行いました。

ご夫人は五十年前の大作を感慨深くご覧になり、画伯は「天満宮に行つてあの絵の手入れをしたい」と仰っていたことをお話されていました。



ているんでしょうね、まことに嬉し
いかぎりです」とお喜びの様子でした。

大神様もさぞ御嘉納のことで御神慮をお示しになったものと拝察申し上げます。末永く御神宝としてお納めさせていただきますことを、ご報告申し上げます。

平成天下の当所
すい都大阪伝統食まつり

去る十二月二日、第三回「平成天下の台所すい都大阪伝統食まつり」が当宮境内で開催されました。

午前九時十五分より本殿において「成功安全祈願祭」を斎行した後、オープンングセレモニーとして実行委員長の佐保康申氏と、天神橋筋三丁目商店街振興組合理事の重矢宏氏の御挨拶のあと、会長の発声によって販売が開始されました。

物販コーナーでは、なにわの伝統野である大阪しる菜、金時人参、難波ねぎ、天王寺かぶら、田辺大根などの旬の野菜や、珍しい大阪産わかめに加え、地元天神橋筋商店街からは天満大阪昆布の出汁昆布、干し椎茸や、西天満の和田萬の国産胡麻(炒りごま・すりごま)などが人気でした。

近畿地方からは、鮎ずし、びわ湖産湖魚の甘露煮、水口かんびょう、おはぎ、おかき、青大豆、すぐき漬、銀寄せ栗渋皮煮、柿の葉寿司、天然醸造醬油、南高梅干などが、また、東北・北陸地方からは、国産菜種油、野菜味噌、青きな粉、赤かぶ漬が、中部・東海地方からは、焼津のなま



り節、藤枝の無農薬茶紅茶、玄米みそ、寒干し大根などが出品されました。

飲食ブースでは、伝統野菜の難波ねぎを使ったねぎ焼、富山のみそ焼き、串玉コンニャク、たい焼き、おでん、大和茶、自家焙煎珈琲、自家製焼き菓子に加え、各地の地酒や本格焼酎、大阪の地ビール「國の長ビール」も販売されました。

境内会場はポカポカ陽気のお蔭もあって、多くの参拝者で賑わい、早々に売切れたブースも少なくなかったようです。

お客様は「毎回楽しみにしています」「伝統食まつりに来ると師走・年末を感じます」「来年も開催して欲しい」などと満足のご様子でした。

社務所 電話番だより
よくあるお問い合わせ

「いただきます」と
「ごちそうさま」

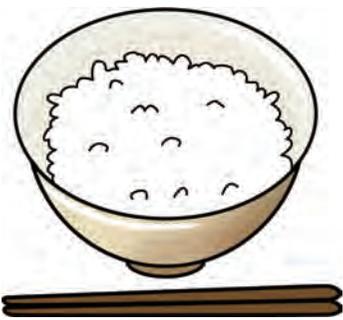
現代の日本社会では、年間一七〇〇万トもの食品廃棄物が生み出されています。そのうち八〇〇万トは消費期限が過ぎて、ただで、まだ食べられるのに廃棄されているのです。

その一方では、全世界の食料援助量は四〇〇万ト以下だといわれています。

これらの数字を単純に比較することは適切ではないのですが、わが国において、どれだけ食べ物が無駄にされているかが解ります。

この浪費ともいえる「食品ロス」を減らす動きが、平成二五年ごろから活発になり、即席麺の賞味期限を延長するなど食品業界の取り組みも見られるようになりました。

この問題については、業界の取り組みに任せるのではなく、私たち一



人一人が、「食べ物」に対する感謝の念を根底に持たねばならないと思います。

ところで、神道の行事作法にも食事の作法は定められています。食前には「たなつもの百の本草も天照らす日の大神の恵み得てこそ…頂きます」、食後には「朝夕にものごとに豊受の神の恵みを思え世の人…ご馳走さまでした」と唱えるのです。

皆様のご家庭で、日々の食事に「いただきます」「ご馳走さまでした」というのは、この神道の教えをうけてのことなのです。

では一体、何を「いただきます」で「ご馳走さまでした」のか、何に「御馳走さま」なのか、うか。

この世に生をいただいているものは、他の生物を摂取することによって自らの生命を保っています。言いかえると、他の生命を「頂いて」自分の生命を維持しているのです。食事の作法「いただきます」は「命を頂きます」だったのです。

また、それが自分の手元に届いて口に入るまでには、数多くの人々が

浪速菅原吟社詠草
雪枝 松村曉二撰

八月席題 朝來蓮池(分韻)
玄齋 佐村昌哉

蓮花早曉滿清池
遍度搖風翠蓋枝
浩漾四邊涼世界
玉葩濃澹送香奇

(訓詁) 蓮花 早曉 清池に滿ち 遍く度り 風に揺らぐ 翠蓋の枝 浩漾たる四辺の涼世界 玉葩濃澹 香を送りて奇なり

(通釈) 蓮の花は早朝に開花して池に満ち、風に揺らぎ緑なる葉は茎をのばしている。辺り一面は涼しげな世界、玉のような花が美しく香っている。

九月課題 京洛秋詞
鐵鳳 安東勝幸

秋花秋草露晶晶
明月中天滿洛城
祖廟天神觸詠興
管音看舞一心平

(訓詁) 秋花秋草 露晶晶 明月中天 洛城に滿つ 祖廟天神 觸詠の興 管音舞を看る一心平なり (通釈) 秋の花や草は露をおびてきらきらとしている、明月は中天に上

十月課題 月下遊歩
鵬城 北野修司

引杖海濱風已涼
月明疑近白沙昌
疊波來去龍燈發
水鏡漂搖追汐香

(訓詁) 杖を海濱に引けば 風已に涼しく 月明の近きを疑う 白沙昌たり 疊波來去して 龍燈發き 水鏡漂搖して汐を追うて香し

十月席題 秋郊散策(分韻)
流攝 菅千鶴子
雨霽清郊爽氣流
高穹一碧白雲浮
融融曳杖桂香裏
步歩朗吟盈目秋

(訓詁) 雨霽れて清郊 爽氣流れ 高穹 一碧 白雲浮かぶ 融々 杖を曳く 桂香の裏 歩々 朗吟 盈目の秋 (通釈) 雨上がりの郊外は爽やかさが流れていて、高空は真つ青で白雲が浮かんでいる。ゆうゆうと杖を曳けば、金木犀の香りがする一步一步、詩を吟じれば眼にいつぱいの秋である。花火見ながら何を思うだろう。

第二十回
あの人もこの人も

天満宮スカウト
カブスカウト隊長
三宅隆様



今回は天満宮スカウトのカブスカウト隊長の三宅隆さん(五八歳)を

ご紹介いたします。

南森町出身の三宅さんは、九歳の時に天満宮スカウトに入団以来、現在まで一度もスカウトから離れたことがないだけでなく、カブの隊長を三十年もお務めになつています。

「友達がいたので入団したが、こんなに長く続けるとは思っていなかった」そうです。活動は基本的に日曜日ですから、三宅さんの休日の多くはスカウトに費やされています。また、天神祭では、平成一二年から「どんどこ船講」に所属されています。

現在は、小学四年から中学三年を講員とする「小若」の世話役をされています。「小若」には天満宮スカウトのカブ隊、ボーイ隊の隊員も入っているそうです。そのため、ボーイスカウトの夏キャンプには「どんどこ船講」のTシャツ、通称『ドンティー』を着ている隊員が多くいます。

三宅さんのお孫さんも近年に参加され「やっ」と夢が叶った。これからは子々孫々、講員になつてほしい」と願われています。

カブスカウト隊長として、また「小若」の世話役として、ますます活躍されますことを願いたいものです。

第一三回 天満天神えびす祭

本年も一月九日から一月一日にかけて「天満天神えびす祭」を斎行いたします。

●堂島北新地えびす詣招福行列
九日(水)午後一時に北新地・堂島の薬師堂で行列の安全祈願と成功を祈願した後、当宮に向かって「堂島北新地えびす詣招福行列」が出發します。

到着後は、本殿に参拝し商売繁盛を祈願した福笹を受け取り、再び北新地に戻って、その福笹を皆様に授与いたします。



の流れるなか、北新地の皆様をはじめ、天満天神繁昌亭の落語家さん、芸妓さん、北新地クイーン、当宮の氏子青年会会員、天満えびす招福娘たちが御奉仕します。

●天満えびす招福娘
招福行列にご奉仕いただく「天満えびす招福娘」は、昨年末の厳正な選考会によって、応募総数三百余名のなか選ばれた二名の才色兼備な女性たちです。

この三日間、招福娘は境内において福笹や福箕などの縁起物を皆様に授与しております。

学問の神様である当宮の「えびす祭」らしく、えべっさん(蛭児尊)の「商売繁盛」の縁起物だけではなく、天神さん(菅原道真公)の「学業成就」にちなみ「合格吉兆」の授与も合わせて行っております。

期間中には、福酒の授与もあり、甘酒の授与などもあり、大賑わいになります。平成最後の「えびす祭」に御参詣下さい。

第一五回 盆梅と刀剣展



また会期中には「盆梅と刀剣展」の他にも、次のように盛りだくさんの行事を企画しております。

- 「梅酒市」 二月九日～十一日 (午前10時～午後四時)
- ※来場者数のギネス記録に挑戦!!
- 「アームレスリング」 二月一日 (午前11時～午後四時)
- 「堺すずめ踊り」 二月一日 (午後三時～)
- 「篠笛」演奏「講談」 二月一日 (午後一時～)
- 「勧進御能」 二月十七日 (午後六時三十分～午後八時)
- 「骨董市」 二月二日～七日 (午前11時～午後四時)
- 「陶器市・アートクラフト」 二月八日～二十四日 (午前11時～午後四時)
- 「全国地域観光物産展」 二月二十五日～三月三日 (午前11時～午後四時)
- 「伊賀INJAFエス」 三月二日 (午後一時～)
- 「水墨画奉納式」 三月二日 (午後一時～)
- 「水墨画体験」 三月三日 (午後一時～午後四時)
- 「振る舞い餅つき」 三月三日 (午前10時～)

平成一六年に始まった「てんま天神まつり」も、お陰様で大阪の春の風物詩として定着してまいりました。今年は二月九日(土)から三日(日)までの開催となります。

今回は例年と大きく異なり、「盆梅」に合わせて「刀剣」の展示を行うこととなりました。数々の名刀剣十数振を、前半(二月九日～二月二十日)と後半(二月二十一日～三月三日)に分けて展示致します。

第九回 天神祭献詠短歌大賞



去る九月一日、参集殿において天神祭献詠短歌大賞の授賞式が行われ、その後、本殿に移って奉告参拝と披露の儀が斎行されました。

この大賞は、第一期(平成十五年)の天神天満花娘で、歌人の高田ほかさんが、平成二二年に当時の天神橋筋商店連合会会長の土居年樹さんに提案して始まったものです。当初は商店街の行事でしたが、土居会長は申し出もあり、当宮で表彰式を行

い、入賞作品も境内で展示することになったものです。

今年「一般部門」と「子ども部門」合わせて約一七〇〇首もの応募があり、その中から優秀作品を選定されましたのでご披露いたします。

◆一般部門
大賞 大内星乃(福岡市)
ざわめきも汗も吐息も装いも
天神さまのまなざしの中

香川ヒサ賞 伊藤賢治(奈良市)
忘れない「平成」最後の天神さん
夜空の眩さあなたの匂い

加藤治郎賞 野呂裕樹(大阪市)
花火より一秒早く「好き」を言い
真夏の音がかき消していく

高田ほか賞 周防律子(池田市)
町内の子供が急に増えている
祭囃子になつかしい顔

天神橋筋商店街賞 堀裕彦(大阪市)
天四のアーケード成りて二十年
平成最後の総会も晴れ

大阪天満宮賞 好井晶子(坂出市)
笛の音とともに漕ぎ出づ斎船
民安けくと鉦流れゆく

◆子ども部門
大賞 横溝麻志穂(仙台市)
闇の中花火が照らす我が家族
顔も心も同じ色だな

香川ヒサ賞 岡坂陽菜
汗流し練習してきた篠笛で
輝かせたい踊り子たちを

加藤治郎賞 杉本美優
(大阪市立新豊崎中学校)
君がいない初めての夏寂しくて
花火見ながら何を思うだろう

高田ほか賞 野中美奈
向こうから
うるさいぐらい音がする
それでも思うやまないように

天神橋筋商店街賞 山口大雅
(大阪市立堀川小学校)
休みの日商店街がにぎわう日
この日はみんな気持ちを変ええる

大阪天満宮賞 上原怜笑
(大阪市立西天満小学校)
かさおどり
たいこにふえにたけのおと
いろんなおとがびびきこえる

選者
歌人・香川ヒサ(「好日」所属)
歌人・加藤治郎(「未来短歌会」所属)
歌人・高田ほか
(天神祭短歌実行委員会委員長、
「未来短歌会」所属)
大阪天満宮禰宜・柳野等

第一五回てんま天神梅まつり 盆梅と刀剣展

左は「てんま天神梅まつり」のチラシです。本年は、恒例の盆梅展に合わせ、刀剣展も開催いたします

ので、チラシの意匠も思い切って一新いたしました。

会場は、国の登録有形文化財（建造物）に指定されている

当宮「参集殿」です。百畳敷きの殿内には、樹齢二百年を越える盆梅と、

話題の刀剣を多数展示いたします。菅原道真公の愛でられた暖かな梅の花の美と、研ぎ澄まされた伶俐な刀剣の美を合わせてお楽しみいただけます。

れば幸甚に存じます。

展示の日程などについては、二二頁でご紹介しております。



●刀剣展示
前半…4振り
2月9日(土)~2月20日(水)

後半…4振り
2月21日(木)~3月3日(日)
期間中展示 他12振り

特別展示 太刀 銘安綱(天光丸)
源義家 佩刀
所蔵:壺井八幡宮

肥前國 忠吉

平成31年
2月9日(土)~3月3日(日)
午前9時半~午後4時まで入場受付(午後4時半閉場)

拝観料 大人700円(高校生以上)
小人400円(中学生以下)
団体600円(10人以上)

●ご来場には京阪電車で
京阪電車「なにわ橋駅」または「天満橋駅」下車
期間中、大阪天満宮境内や当宮の表参道である
天神橋筋商店街に於いても多彩な催し物がごさいます。

問い合わせ先
大阪天満宮社務所:06(6353)0025

大阪市集客・宿泊促進型イベント創出事業参加 大阪梅名所めぐり協賛イベント



編集後記

現在の社務所が建設されたのは昭和五十七年のことです。その後、半世紀近い歳月の間には、職員の増員に加え、徐々にICT機器も導入されてきました。結果、床面には各種の配線などが露出し、そのためパソコンの不具合による事務作業の遅滞も少なくありませんでした。

そこで、宮司の発案により十一月初旬から社務所事務室、会計室を全面改装するとともに、事務机や書庫などの収納設備も新調し、見違えるような室内風景となりました。

特に、事務室はOAフロアによる床下配線とし、土足を禁止しました。今後は土埃による故障などは減少することと思えます。

新しい環境で心機一転し、職務に精励できるようになりましたことが何より意義深いことと存じます。

大阪天満宮社報

てんまてんじん 第75号

平成30年12月25日印刷

平成31年1月1日発行

発行人 寺井種治

発行所 大阪天満宮社務所

〒530 0041 大阪市北区天神橋2-1-8

TEL 06-6353-0025

印刷所 木村印刷株式会社